

文学講座

大戦末期の文明、楸邨の大陸行 その謎を解く



土屋文明は、昭和19年7月から約5ヶ月もの長期にわたり、中国大陸を縦横に旅した。そこで逞しく生きる中国民衆の姿に感銘を受け、その生活ぶりを「短歌」に活写。名歌集『葦菁集』が誕生した。同行の俳人加藤楸邨と歌人の石川信雄についても言及する。

かりべ さだお
講師 **雁部 貞夫** 氏

1938年生まれ。東京都出身。新アララギ代表。日本歌人クラブ参与。1953年より土屋文明（アララギ）に師事。歌集『辺境の星』（1996年 短歌新聞社）、歌書『『葦菁集』をたどる一大陸の文明と楸邨』（2015年 青磁社）、歌集『わがヒマラヤ』（2019年 青磁社）等、著書多数。

日時

令和3年 **10月24日**（日） **14:00～15:30**
（13:30～受付）

会場

群馬県立土屋文明記念文学館 2F研修室

定員

50名 要事前申込（先着順）

参加無料

お申し込み
お問い合わせ

☎ **027-373-7721** 土屋文明記念文学館（9:30～17:00 火曜休）
当館ホームページ、受付カウンターでも承ります

※新型コロナウイルス感染症の状況により変更になる場合があります。当日はマスク着用、消毒、換気など感染症対策にご協力ください。

